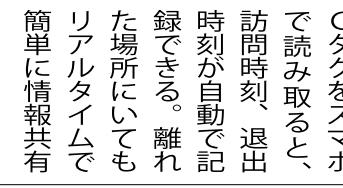


# 地域連携で定期巡回サービス

エイプレイス 訪問介護事業所への委託積極活用

地域の訪問介護事業所と連携して「チーム型」で定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスに取り組んでいるのがエイプレイス(新宿区、藤田潔社長)だ。プランに位置づけたサービスを地域の訪問介護事業所に委託して行ってもらっている。常勤職員のキャパを超えた数の利用者への対応が可能になる。委託を受ける事業者もヘルパーも、空き時間的有效に使える。利用者にとっては、サービスを変えて、馴染みのヘルパーさんに引き続き来てもらえる。定期巡回というサービスを「ハブ」にしてハッピーにつながることができる仕組みだ。



新しい介護をつくろうと求人

管理者の和田さん(左)とヘルパーの川窪謙さん。常勤の男性ヘルパーが中心だ(写真上)。事業所の外観。

レイス新宿で、管理者、計画作成責任者を務める和田篤昌さんは、介護福祉士、ケアマネの資格を持ち、住宅型有料老人ホームで働いた経験がある。今が一番やりがいを感じているという。

たとえば、87歳の要介護3の男性。透析を行っており、1日3回の服薬が欠かせない。確認のため、1日3回訪問しているが、訪問時に転倒しているのを発見。食事の用意もできなくなつたため、サービス内容を見直

し、回数を増やした。こ

の間、緊急コールによる深夜の訪問もあり、回復までの1ヶ月を支えた。

エイプレイスの親会社ホームネットは、高齢者向け緊急通報システムのパイオニア。24時間の見守りの延長で、夜間対応型訪問介護に参入。定期巡回・随時対応型サービ

スでは、まず、業務支援システム「スマケア」を開発・販売から着手した。訪問先の高齢者宅にあらかじめおいてあるICカードに埋め込んだ

人が、それをカバーしてい

るようにしていくたい」という想いがある。大切な人いる。あなたの心を養ふしたい。「住み慣れた家」で過ごしたい。その思いを認めさせない。あなたは、介護するだけ? 新しい介護をつくろう

施設入居。定期巡回はまだ選択肢に入っています。重度の要介護状態には、書類の作成は不要で、委託を受けた場合は、手間もかかりません。重度の要介護状態に受けられるサービスがあることを知つてもらいたい

ことの間違えないので利用者にも喜ばれている。事業所同士がライバルとして競い合うのではなく、チー

ムによって地域を支える

ことは地域包括ケアが目指す方向と重なる。

2015年に開設し、3年。利用者は30人近くになる時もある。

「日中の訪問はできるだけ委託して、もっと多

く人に利用してもらえ

るようにしていくたい」という想いがある。利用者の平均要介護度は現在3・5。目標は要介護4以上とすることだ。実は、エイプレイス

遇改善加算分250円は必ず支払う。委託先では訪問と訪問の間のちょっとした空き時間を活用で

施設入居。定期巡回はまだ選択肢に入っています。重度の要介護状態には、書類の作成は不要で、委託を受けた場合は、手間もかかりません。重度の要介護状態に受けられるサービスがあることを知つてもらいたい

ムによって地域を支えることは地域包括ケアが目指す方向と重なる。

2015年に開設し、3年。利用者は30人近くになる時もある。

「日中の訪問はできるだけ委託して、もっと多

く人に利用してもらえ

るようにしていくたい

」(和田さん)

支えるスタッフは14人。うち、12人が常勤職員。3交代で24時間力をバしており、訪問回数はおのずと限界があるが、それをカバーしてい

るのが、地域の事業所との連携だ。現在、新宿区内24の事業所と提携。

委託費用は、内容によらず時間単位で10分500円。消費税込みで最初の30分の1620円と処理できる。離れた場所にいてもリアルタイムで簡単に情報共有

ホトコタグで実績管理。どこを切り取つても

10人が男性。新宿区内全域を営業エリアにしており、体力のある若い男性に採用を絞った。常勤12人の平均年齢は35歳。洪んだ男性介護士が自転車で地域を駆け巡り、スマホとコタグで実績管

理。どこを切り取つても同士がライバルとして競い合うのではなく、チー

ムによって地域を支えることは地域包括ケアが目指す方向と重なる。

2015年に開設し、3年。利用者は30人近くになる時もある。

「日中の訪問はできるだけ委託して、もっと多

く人に利用してもらえ

るようにしていくたい

」(和田さん)